

コロナ禍で進んだオンライン人権啓発

学校と同じように、コロナ感染症対策はZoomなどを活用したオンライン学習の社会環境を一気に作り上げてしまいました。人権啓発の学習会も同様です。従来、会場まで移動しなければならなかった学習会に、Zoomの環境さえ用意すれば自宅などで手軽に参加できるようになりました。

また、学習会主催者(じんけんスコラ)の協力を頂き、らいとぴあ21にZoomグループ受講のサテライト会場を作りました。受講したいがZoom環境がない、あるいは一人よりも集団で受講したいという方がその都度集まってグループでZoom受講できたのもオンラインならではの新しい学習形式でした。

オンラインの人権啓発は、その成果が点から線となり、さらには面となって「今後もより広がっていく可能性がある」と感じた一年でした。

(同和問題啓発研究部会 湯山 徹)

2021年<第12期> 市民のための人権大学院	
<b>じんけん SCHOLA</b>	
コロナ禍の世界的な拡大は、社会の潜在的な差別を顕微鏡化させると同時に、人権を人々の共通の課題とすべき状態をもたらしています。今期もスコラは、オンラインを中心に、私たちが目指すべき「人権」を広く社会へ発信します(各号で対面講座の開催予定している講座もありますが、新型コロナの状況によっては変更します)。	
A シンポジウム「コロナ禍と異国・格差問題」	神原 文子(社会学者(博士)) 金光 肇(国語)コリア研究所/翻訳/韓国語(キオク)
B 歴史し、ともにひらく新しい歴史(全10回)	上杉 謙(じんけんSCHOLA共同代表 大阪府立大学元特任教授)
C 「人権とはず」(全3回)	土屋 真志(大阪府立大学)
D ABCからわかる日韓歴史問題講座	本村 幹(神戸大学)
E インターネットと現代的差別意識	辻 大介(大阪大学)
F 音楽と人権(全3回)	伊藤 寛(和歌山県立女子短期大学)
G 共生社会への一歩を！(全3回)	堀 智博(インクルーシブ教育研究所)
H はじめてみよう！これからの国際問題(全2回)	石元 清英(関西大学名誉教授)
I 日本の人権差別と排外主義を克服するために	文 公 嗣(多摩大学人権啓発センター)
J 「LGBT教育」をどう進めようか(全2回)	石元 清英(関西大学名誉教授)
K 「道徳」と人権	土屋 真志(大阪府立大学)
L 大阪の歴史の現状と未来	島 和博(大阪府立大学)
M 大阪における「差別」の起源	上杉 謙(じんけんSCHOLA共同代表 大阪府立大学元特任教授)

編集後記

「最強のバディ」迫田和久さんをお迎えしたオンライン講演会

「最強のバディと出会うとき」オンライン講演後、迫田和久さん(中央)を囲んで実行委員会スタッフと記念撮影。迫田さん、児玉さんの思いと感動の余韻が満ちていた会場で、和やかな、温かいひとときでした。(S)



箕面市人権啓発推進協議会 ニュースレターはHPからもご覧いただけます。

箕面市 人権協 ニュースレター

検索

箕面市人権啓発推進協議会 ニュースレター

2022年4月 Copyright ©箕面市人権啓発推進協議会

発行:箕面市人権啓発推進協議会  
大阪府箕面市萱野1-19-4  
箕面市立萱野中央人権文化センター  
(らいとぴあ21) 2F

お問い合わせ・ご相談はこちら  
072-722-2470  
FAX:072-734-6509  
jinken-jimu-minoh@silk.ocn.ne.jp

箕面市人権啓発推進協議会について詳しくはwebサイトへ  
<http://wat-minoh.sakura.ne.jp/>

箕面市人権啓発推進協議会

検索



1人では無理でも、2人なら。諦めない「最強のバディ」から生きる姿勢を学ぶ。

Q.「最強のバディと出会うとき」を主催された経緯は?

新居:豊能障害者労働センターは、障害者と健常者が対等に働く事業所です。障害者が地域で自立生活する支援を進める中で、尼崎市に住む第1種1級の身体障害をもつ児玉彰宏さんと出会いました。ハングリー精神がある人で、手足を自由に動かせない障害にも関わらず「普通に生活して仕事をする」という強い意志をもっておられました。

高橋:児玉さんはある日、「ダイビングに挑戦したい」と意を決して奄美大島諸島の加計呂麻島へ。児玉さんを担当するインストラクターの1人が迫田和久さんでした。ダイビング器材を身につけるのも、海に入るのも、海の中で泳ぐ、沈むのもインストラクターまかせ。海中でうまく呼吸できなかった児玉さんに合わせた練習方法を考え、初ダイビングが見事成功!信頼関係を築いた2人は、海でも陸でも一緒に過ごす時間が増え、いつしか20年もの間ダイビングを楽しむ「最強のバディ」になりました。

野田:インストラクターとお客さんの関係が「友達」になり本音で付き合いができる間柄になった2人の話をぜひ箕面で聞きたい!と講演依頼しましたが、昨年度はコロナ禍のため延期に。今年度の開催を待つ8月に、残念ながら児玉さん

(一財)箕面市障害者事業団 常務理事 たかはし まさのぶ  
(一財)箕面市障害者事業団 事務局長 の だ やすひろ  
豊能障害者労働センター 職員 あらいりょう  
新居良さん

「最強のバディと出会うとき」実行委員会メンバー。障害者の人権啓発講演会「最強のバディと出会うとき～障害のある人のダイビングチャレンジ～」を2021年12月5日に開催。

は亡くなりました。最後まで「みのお人権フォーラムがんばるぞ!」と言ってくださっていたと聞いて、2人のことを箕面の皆さんに知ってもらいたい気持ちがさらに高まりました。

Q.オンライン講演はどのようなものになりましたか?

野田:初のオンライン開催で準備が大変でしたが、実現できて良かったです。ダイビング後に迫田さんが海辺で奏でるウクレレも披露くださいました。不思議だったのが、迫田さんから児玉さんの話を聞く中で、多くの人が「児玉さんがそこにいる、そばにいる」ような感覚になったことです。様々な挫折の中で児玉さんは「ありのままでもいい」という境地にたどり着いたといいます。好奇心の高さ、負けん気、前向きな心が、色々な人に好かれる要因だったんだろうと感じました。新居:「人の可能性ってなんなんだろう?」と考えさせられました。未来を開いて、夢をかなえる。人間の可能性に限界はないのではないか、と思われました。1人ではできないことも、2人なら。辛いことがある中でも自分を解放し、楽しむ姿勢を忘れない「最強のバディ」の言葉を聞いて頂いた皆さんの心に、何か良いものが残ればよいと思います。